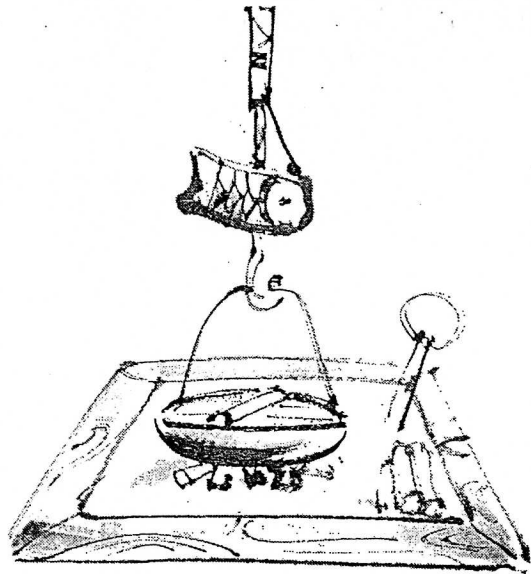


地区だより



激動の1991年もやがて暮れようとしています。
今、私は3月28日小田原郵便局の消印が有る一枚のハガキを手にして
います。「私こと、この度32年余り・・・小田原市立病院を退職
する事になりました・・・ 水沢 良隆。」
こんなにも早く先生の訃報を聞こうとは思いませんでした。先生と親
しくお付き合いして3年程しか経っていないこと、西湘技師会、小田
急沿線技師長会等の会合で6回程宴席を共にしたこと、今年2月の連
休には娘共々新潟の郷里へお世話になり野天風呂でゆっくりハダカの
お付き合いをしたこと、放射線技師の専門職としての在り方を熱っぽ
く説いていたこと・・・、短くとも実り有る思い出が脳裏に焼き付い
ています。

すでに病魔に侵されつつ、自からの命を削り落としながらも放射線
技師職の発展の為に一身に献身しつづけていた先生を思う毎に、何故
に神のご加護がないのかと腹立たしくも思えてなりません。

しかし、私共俗世に生きる者の気遣いなど無用で、天国で安らかな
日々を送って居られるのでしょうか。

けれども先生、天国で眠って居たりしないで下さい！ 我々をもう
少し見続けていて下さい。

先生の意志を立派に継いでくれる人を大勢残してくれたでは有りま
せんか。

西湘放射線技師会一同は、生前の先生の幾多のご尽力に報いるよう
努力する事をお誓い致します。

会長 千安 式部

飯塚 芳郎先生おめでとうございます。
勲五等・瑞宝章 受賞される。

去る11月 8日、神奈川県庁にて勲記・勲章の伝達式。

11月11日、宮中にて天皇陛下に拝謁、お言葉頂戴される。

ご夫妻お揃いにて、前夜は赤坂プリンスホテル一泊されたご様子、身支度
やら諸々の気遣い等大変だったのでは・・・、 お疲れ様でした。

(神奈川放射線 NO. 115-43P掲載)

地区委員会報告

1 日本放射線技師会関東地区会長会議報告

鈴鹿医療科学技術大学へ社会人教育コース設置へ日本放射
線技師会会長名で要望書提出

技師会会員の編入制度検討

関東地区数県で4年制大学設立予定及び短大の4年制大学移行へ
数校検討中とのこと

臨床実習指導指針書来春発行予定

技師法改正へ最終的な検討を行う

技師国家試験の見直しを行いたい(一般教養の削除等)

2 神奈川県人材育成放射線技師生涯教育について

神奈川県放射線技術講習会の発展検討

大学病院等施設の開放 一人勤務者の教育の拡充

3 日本放射線技師会教育センター開設3周年

鈴鹿医療科学技術大学開校1周年

記念野球大会に関東代表で本県野球チーム参加

4 平成4年新春賀詞交歓会へ当地区より多数の参加をお願いします

H4/1/17(金) メルパルク・横浜 会費8000円

5 新春ボーリング大会参加者大募集

H/1/25(土) ブランズウィック横浜 会費 千円

参加希望者は福利厚生 奥村聖 大内三次 各氏迄

6 新春放談会参加者募集

H4/2/8 三浦保養所

7 放射線検査シリーズ ポスター配布予定

8 技師会事務所拡張資金の再度募金に御協力お願い致します

詳しくは神奈川放射線No. 115の46ページを読んで

下さい

(千葉)

91, 秋の学術講演会報告

去る11月27日(水)足柄上病院4階会議室にて秋期学術講演会が会員36名の出席で開催されました。

講師は横浜市大病院 放射線科講師の大越 隆文先生に他のモダリティと比較しながら『MRIの有用性について』という題で、頭から足の先までと全身の臨床例をスライド200枚を駆使しながら講演されましたので報告致します。

まずMRIがCTより有利な点は、あらゆる断面の任意の断面が自由にとれる。

【脳領域】 ※T1は解剖が分かりやすい、T2では内部構造に良く病変を見るために良い。 ※CTでは描出できない急性期の脳梗塞が、MRIでは密度分解能に優れ描出可能である。 ※下垂体周囲はCTでは骨からのアーチファクトで殆ど分からないが、この部位ではMRIの独壇場である。

※病変があった場合、脳実質外か脳実質内かを確実に診断をつける撮影が必要である(ハスキュリングの有無)。

※多発性硬化症は必ず造影剤(Gd-DTPA)を使用する(アケイブかどうか)。

【肝臓】 ※腺種様過形成という病変に関してはMRIが一番有用性がある。肝細胞癌と区別が可能である。T2で低信号 肝細胞癌は高信号となる。

【骨盤・子宮】 ※CTでは内部がダンゴ状でよく分からなく、また被曝の問題がある。エコーでよく分かるがエコーは検査者の能力に左右されやすい欠点がある。MRIでは内部構造が良く分かり、特にT2が良い。この領域の検査は将来的にはMRIに移行してゆく。

【四肢・骨】 ※組織診断の鑑別は一部の病変を除いて殆どできない。腫瘍の広がりを見ることが大切である。

【股関節】 ※T1では病変の広がり、T2では病変の時期が分かる。

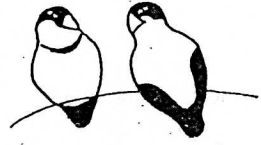
豊富かつ貴重な症例を始め、MRIは最初(見つける数が多い)と最後(無侵襲での検査)の検査であって、その途中検査にCTや血管撮影を取入れてゆく事や、診断しやすい撮影には手間暇をかける必要性などを話して頂き、大変有意義な内容でありました事を深く感謝致します。

MRIはこの西湘地区で3施設で稼働していることもあって講演後、会場のMRI担当の会員から熱心な質疑応答がなされるようになったことは大きな前進といえると思います。

そして近い将来、MRIは画像診断分野ではかなり有用性の高い検査として位置付けられる事が期待される中、我々技師も一層の勉強が必要とされている。

(高野/坂本)





施設紹介

医療法人明芳会北小田原病院

細田 囊

当院は、神奈川の西北の地質学的に有名な矢倉岳の麓，足柄古道，酒匂川の上流内川に位置し、四季にわたり山野の自然に守られ野花は咲き、野鳥もさえずり生き物も豊富でおもいおもいに住みわけています。これ程自然に恵まれた環境に存在する病院は数少ないでしょう。

昭和55年5月に周山会本村病院で創設され、約4年間精神科を中心に診療が行われて来ましたが、昭和59年7月経営不振の為経営体制が変わり明芳会北小田原病院として、内科，神経内科を増設し老人医療専門病院として再スタートしました。

従来6ヶ年計画、「高度な医療で愛し愛される病院」の理念を根本に何人も平等に医療を受けられる病院として技術向上と設備の充実を行ってきました。今後は地域住民と密着した医療を目指す地域医療機関として着実に一步一步前進したいと思います。

放射線科の内容；

メンバー

技師 1名

業務内容

一般撮影，X線TV，X線CT

対象が老人ケアが主で寝たきりの患者さんがほとんどです。看護婦さん，助手さん達の応援なくして仕事は進みません。ですからチームワーク良く行われています。撮影件数はそれ程多くも無くまあまあです。

設備の紹介

一般撮影 島津ID150L-3

X線TV 島津XTD150M-10

USZ-10

全身CT 日立W3-40

ポータブル 島津MD100P

自動現像機 コニカQX130

以上簡単に当院について説明致しましたが、お近くにお出いでの際は折
ち寄り下さい。 以上

新入会員

桐田 丸行

小田原循環器病院

故、水沢 良隆先生を偲んで！

水沢先生は三十幾余年、小田原市立病院放射線科の技師長職を全うされ、今春定年退官されたばかりでしたが、不運にも10月15日昼頃、自宅にて静かに天国へ召されました。昭和三十年代、新潟から小田原の地へ赴任されるや間もなく、西湘地区の技師間相互の組織作りを先頭切って手掛けてより、現在の西湘放技会の育成に至るまで、まさに私達の「爺（おやじ）的存在」でした。

西湘地区に分け与えられた先生の有形無形の知恵と功績は私達一人一人の心の中に永く輝き続けることでしょう。

生前、先生の公私に至る幅広いご交際の中から特に親しくお付き合いされていた方々にご寄稿して頂きました。また、当会多数の会員を代表して渡部 隆夫会員に追悼文をお願い致した次第です。ご寄稿された皆様方に心より厚くお礼申し上げます。（編集部）

表彰歴

昭和39年12月	神奈川県国民保健連合会表彰
昭和43年10月	同上
昭和45年10月	神奈川県公衆衛生協会表彰
昭和48年4月	日本放射線技師会会長表彰
昭和48年10月	神奈川県小田原保健所所長表彰 神奈川県国民保健連合会表彰
昭和51年11月	神奈川県県知事表彰
昭和53年11月	自治体病院開設者協議会表彰
昭和54年9月	国民健康保険中央会表彰
昭和62年9月	神奈川県放射線技師会会長表彰
平成元年4月	30年勤続小田原市長表彰
平成元年5月	神奈川県自治体病院開設者協議会表彰
平成元年11月	放射線安全管理功労者表彰（第一回） 科学技術庁長官賞



追悼文を寄せられた方々。（五十音順）

芹沢 病院	飯塚 芳郎	（社）日本放射線技師会副会長
（株）池田医療電機		佐久間 正
横浜営業所所長	池田 諒三	富士フィルム健康管理センター
富士メディカルシステム（株）		杉本津子夫
本社常務取締役	大久保昇洋	千代田メディカル（株）
（社）神奈川県放射線技師会会長		横浜営業部部長
兼西湘放技会担当理事	栗田 達夫	（株）日立製作所
富士メディカルシステム（株）		神奈川工場診療所
東京営業所所長	小島 敏男	真鶴国保診療所
大和市立病院技師長	小林 輝雄	（株）池田医療電機
斎藤鍼灸院	斎藤友三郎	小田原出張所所長
神奈川県職員健康管理センター		千代田メディカル（株）
前西湘放技会担当理事	斎藤 良久	相模営業所所長付
		渡部 正美
		日本精工（株）藤沢工場診療所
		渡部 隆夫



古き友 また一人去る 悲しきことなり

飯塚 芳郎

我が友 水沢 良隆君が満60歳の生涯を閉じられた。近年古き友が一人去り、二人去りして行く中で水沢君の死はあまりにも若く「君までもか」と、我が心の哀しみもまた一人である。水沢君との出会いはS33年に小田原市立病院が開院して間もない頃、随分遠い昔になる。S32年に東京から富士フィルム付属病院に赴任して来た私にとっても、新潟から赴任して来た水沢君にしても、知らぬ土地に来て親しい友もなく互いの寂しさが二人を急速に近づけていった。水沢君が赴任した当時、一台のX線装置、部長以下3名と言う小さな放射線科が現在の立派な放射線科に発展する迄の苦勞にも、新潟県人特有の粘り強さで耐え黙々として任を果たし現大木技師長他多くの後進を育成し、当技師会員の育成にも尽くした功績も忘れられない。こうした彼の人と成り が、私より遥かに若いにも拘わらず「長老・長老」と多くの会員から慕われて来た所以ではなからうか。

ご冥福を祈って止まない。合掌

池田 諒三

水沢先生、これからゆっくりと余生を送って頂き人生哲学を拝聴したいと思っていましたのに、こんなに早く永久のお別れに成ってしまいました。生者必滅は世の習いとは言え哀惜痛恨の窮みでございます。先生には父と私の親子二代に渡りお付き合いを賜り、大切なお客様であると共に公私に渡りお世話になりました。私が先生にお目に掛かった最初の頃は厳格な感じでなかなか近寄り難く、前に出ると堅くなり思うように話が出来なかったものです。それを察してか先生は「諒ちゃん」と名前で呼んでくれる様に成り緊張をほぐして下さいました。又お会いすると必ず「商売の調子はどうだ、頑張れよ。」と励まし心配して下さいました。又私が本社へ出張後汽車から見た新潟の風景などのお話しをすると先生は目を輝かせて故郷に思いを馳せていらっしゃいました。そんな暖かい心を持った先生も私に多くの思い出を残し天国へ行かれてしまいました。しかし信念に燃えた責任感溢れる行きざまは、私の人生の歩みの中で蘇り消える事の無い光を放ち続け永遠に不滅です。

心安らかに永久の眠りにお付き下さい。

大久保 昇洋

水沢先生に始めてお目にかかったのは新潟でした。30数年前のことです。最初の印象は「技術について、応対について 大変厳しい方」でした。何度かお伺いしているうちに先生は他に対してよりも御自分に対し一層厳しく律せられ男らしく親分肌である一方細かいところまで気配りされる方、またX-レイ写真コンテストでは幾度も上位入賞を果たされるという非常に高い技術を持たれた方だと解って参りました。初代院長田宮先生が水沢先生を態々新潟から小田原までお誘いになったのも先生のお人柄と実力とを高く買われたからだったのでしょうか。更に先生は人生に対し、また職業に対して明確な哲学をお持ちでした。まだまだ御活躍、御指導を願きたい先生とのお別れは本当に悲しいことですがこれからは先生に教えて戴いたことを次の世代へと伝承してゆくことで少しでもご恩返しが出来ればと存じています。

先生 長い間大変お世話様に相成りました。心よりお礼申し上げます。

弔辞

栗田 達夫

吾らの盟友、水沢良隆先生の御霊に謹んで申し上げます。昨日突然の先生の訃報に接し真に痛恨の念に耐えません。思い起せば昨年夏のあの暑いさなかに行われた西湘放射線技師会の創立三十周年の記念式典のとき、先生はにっこりと微笑をたたえて勇躍とステージに立たれ、私とそれに当時の西湘技師会宗像会長と三人で樽酒に木槌を振って鏡割りを見事に演じられましたね。それはつい昨日の事のように感じられますがあの時が先生との最後の別れとなろうとは本当に残念の極であります。

先生は小田原地区を中心とした西湘放射線技師会の育成に永年情熱を傾けられ発展を遂げつつある技師会の四十年、五十年も見届けて戴きたかったのですが、なぜ先を急がれたのですか。診療放射線技師として地域医療の向上に邁進され、吾々の良き先輩であり佳き指導者としてその訓導に浴した者は数知れないと思います。ここに先生の業績を称え県西の地より西湘放射線技師会はもとより神奈川県放射線技師会の将来を見守って下さい。吾々も先生の御偉徳を偲びながらお応えする所存です。水沢先生どうか安らかにお休み下さい。神奈川県放射線技師会を代表してお別れの言葉と致します。平成3年10月17日

巨星 墜つ

小島 敏男

故、水沢良隆先生にはいろいろな顔が有りました。西湘地区技師会の「爺」、小田原市立病院放科での「管理者」、患者に接する「慈悲」（パーシエントケアを最も忠実に実践した先生でした。）、我々メーカー等取引先の者に対する厳しくも温情溢れる「医療人」の顔等々……。そのいずれの顔も私は大好きでした。少々頑固？でそのくせ心優しい先生でした。東北県人会の親分そのものでした。先生とのお付き合いの始まりでは私が一番年少だったせいか、手取り足取り文字通りご指導賜りました。（礼儀、人間としての常識等々）本当に有り難い事です。感謝の念今でも一杯です。およそ営業になど不向きな私が20年間もこの業界で何とか息が出来ているのも先生のお陰です。何一つ恩返し出来ない俛に逝去されました。残念でなりません。せめてあと数年は・・・と断腸の思いです。

叶わぬ夢となってしまいました。どうぞ安らかに永眠下さい。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。御生前の数々の御指導、御厚情心から感謝致します。 合掌



小林 輝雄

「あなたに会うとまた数字の話しだね。」 水沢先生とは技師会はもとより、県下国民健康保険直営施設部会、小田急沿線技師長会、県下市立病院技師長会などでお会いする機会は数多く有りましたが、二人だけになるといつも業務統計を主とした数字の話しとなってしまいました。現状を把握する数字、将来を予測する数字と対応するための数字が先生の口から次から次へ飛び出しました。それ故に先生の思い出と言われるとまず数字が浮かびます。これらの数字の多くは私の業務に役だ立たせて頂きました。

先生は今天国で地球環境の汚染度など人類の将来を数字をもって予想されているでは無いでしょうか。先生とのご交誼の中で一つの格言を実感しました。「分類は科学なり、科学は分類なり。」という事を。 先生のご冥福をお祈りいたします。

齋藤 友三郎

ふり返って見ますと、S33年に小田原市立病院が開院し放射線科に初代の技師として新潟から赴任されたのが水沢先生でした。この頃から富士フィルム付属病院の飯塚先生のご提言で当地区にも会員の親睦組織を作ろうではないかとの話しが有り、その後に飯塚、水沢両先生と何回かの会合を持ったのが先生とのお付き合いの始まりでした。

先生はだいたいが寡黙、越後なまりでポツリポツリと話をされる「タイプ」で内に情熱を秘めた粘り強い雪国の人、特有の人柄で有ったように思います。過日の退官祝いの席で水沢先生と大久保昇洋氏（富士メデカルシステム常務）と、これからはゆっくり暮でも打ちましようよと話をしたのが最後になりました。年令から云ってもまだまだ活躍出来る人材を失って誠に残念に思います。

合掌



笑顔に御別れの盃を

齋藤 良久

「まだ十年はやいよ」と言う言葉聞いた事有りますか。若い人が甘えすぎて親しさを越えた態度を取った時に良く使われます。私は水沢先生にこの言葉を捧げます。未だ60歳を幾らも過ぎていないのに鬼箱に入られたのですから・・・。私と先生の出会いはS34年春、新設小田原市立病院へ当時の長浜療養所から見学の時が始めてでした。新潟から着任された事、私の両親が同県出身だったり年齢も同年代のようで、お互い親近感を持ってお付き合いを願って来ました。S46年厚木病院へ転勤してから兄弟のような交わりをするようになり、S53年9月、技師長としての苦労を互いに理解し励まし合おうと小田急沿線技師長会を発足させ先生は中心的役割で活躍されました。また西湘技師会では長老の一人として現在の隆盛を図った功労者でも有りました。趣味の事では溪流釣りに盆栽に造詣が深く一流の域と伺っています。まだ色々なことで実行し精進したい事が沢山お有りだったでしょう。「本当に十年早いか」と草葉の陰でうなずいてくれるのではないのでしょうか。たまには先生の墓前で一杯やりに伺います。安らかに眠りください。合掌。

佐久間 正

昨年の秋伊豆での会合に参加した時、小田原駅から水沢先生の愛車に乗せて頂き、昔の懐かしいこと、変革の激しい現代社会のこと等、当日は特に車が渋滞していて約3時間も話し合う事が出来ました。私が「先生お体の方は如何ですか」と伺いますと、「決して調子は良くないのですよ。」と意外な言葉が返ってきた。先生独特の静かな話し方、あれが最後となってしまいました。先生と知り合ったのは横浜市立大学医学部教授田宮先生が小田原市立病院の院長に就任され、「放射線技師長は水沢先生以外に無い」と言われ、新潟からお出願した時からの事有ります。以来私にとっては良き師であり、友人であり、それだけに時にはきびしい討論もしましたし、楽しい夢も語り合いました。懐かしい思い出ばかりで有ります。先生のお人柄は誠実で温和そのもので有りましたが、その底には静かな強い意志が隠されており放射線技師の指導に対する情熱と献身的努力には心から敬服致しておりました。これから益々ご活躍頂かなければならないのに本当に惜しい人を失ってしまい残念でなりません。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

杉本 津子夫

水沢先生にお会いすると必ず第一声、「杉本先生は酒が呑めないからなー」と云う言葉から始まった。多くの仲間達が水沢先生と美味しい酒を呑み交わしながら・・・の思い出が沢山有るだろうと思うと羨ましくも有り、私も先生が酒を片手に蘊蓄を傾けて語られる人生論をお聞きしたかった。S50年2回目の足柄上HC勤務を命ぜられた当時は「地域保健活動推進事業」のプロジェクトチームの一員と成り、先生に総合病院の検査体制について教を乞いに行った事が有る。「3時間待って3分診療」と云う患者さんからの苦情が流行語として出始めた頃だった。先生は検査体制の現状と将来像について数字と統計を引用しながら熱く語られたそのお姿を昨日の様に思い出す。その明確な判断と予測には圧倒されたものだった。公衆衛生論は、その後のプロジェクト会議に何回も先生のご意見を引用させて頂いた。数年前ゴルフ・トリプルボギー研究会を西湘地区に作った折、非常に喜んで楽しそうにプレーして居られた事が印象的であった。何事に付けても物事の順番は弁える先生だったのに、何故か今度だけはどうしたのか順番を間違え逝ってしまった。

思うだに、残念であり悔しくてならない。

水沢先生の思い出

土井 勝治

高い天井の大きな撮影室を遠慮しながら通って技師室に入り、寡黙な細面の水沢先生に初めてお会いしたのはS42年3月でした。それから25年目の今年7月31日箱根湯本の「湯さ荘」で斎藤 良久先生と3人で一泊しました。当日は夏休みでも有り毎年女子大生やお子さん連れのお客さんで満員となるのがどういう訳か、今年はガラガラで品の良い仲居さんが暇なのか夜11時までお付き合いをしてくれました。「先生、沢山食べた方が良いですよ。私なんか食欲増進剤として酒を飲んでいるようなもんですよ。」と私が生意気に言いますと、「そうか。」と言って箸を動かし始め、「やあ、今日の料理は美味しいな」とニコニコ顔で、良久先生との話しのキャッチボールもスムーズにすべての料理を召し上がってしまいました。あの笑顔がまだ私の脳裏に焼き付いております。

「水沢先生！ 天国でもしっかり食べながら飲むよにして下さいね。」



追憶

福田 光男

S33年6月24日田宮院長就任により小田原市立病院が110床職員260人で開院された。放射線科は飯田医長、7月に水沢氏と私、事務1名で診療を開始した。技師2人の為1人が暗室、1人が撮影と治療を1日交代で作業した。タンク現像だったので朝から昼まで出られない状態だった。1日の作業終了後写真のチェックを2人で行い良し悪しを話し合い勉強の時を過ごした。思えば充実した楽しい日々でした。水沢氏は新潟の総合病院で臨床写真を経験してきたベテランに対し、保健所等出身の私はよく教えて頂きながら作業していました。その頃富士、さくら写真コンテストで水沢氏は応募のたびに入賞、私は佳作位でよく彼の写真、撮影技術を勉強したものである。S42年に私が退職で東京へ移る時不安がる私に、彼は「これだけの仕事をしてきた今何も恐れる事はない、立派なプロとして胸を張って良い。」との言葉を聞き、心から幸せに思った次第である。

この度の他界の報に接し、その後惜しまれ親しまれて居た事を知った次第です。

若い頃を思い出しつつ、安らかに眠られん事をお祈りします。

本郷 隆幸

「おー 元気かい」と言っていていつも握手を求めてくれたあのあたたかい手の温もりも、もう二度と肌で感ずる事が出来なくなった水沢先生。でも私には今でもあの温かい手の感触が残っています。何時お逢いしても笑顔で迎えてくれた先生が私には今でも健在であるかのように思えてならないのです。それ程先生とのお付き合いが長かった訳です。本当に大切な方をこんなに早く失い残念で成りません。先生に初めてお会いしたのはS33年に私が結核に罹り断層撮影の為小田原市立病院へ患者として診療を受けに行った時なのです。その時にご挨拶もせず帰ったのですが、その後技師で会合を持つとの連絡を頂き水沢先生他数人のメンバーで今日の西湘放技会の前進が産声を上げた訳です。私には在りし日の先生の事が走馬灯のように思い出されるのです。こうしてペンを取っている今も胸が詰まる想いで書いております。これからも先生の遺徳を手本とし日夜の勤務に生かそうと思っている次第です。先生のご冥福を心からお祈りして稿をとじます。合掌

旅立ち

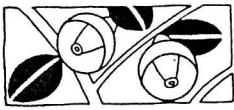
横野 勇

水沢先生は雪国育ち特有の粘りと忍耐で大地に一步一步足跡を残されました。六十年の短い生涯を幾多の先人の待つ元に急ぎ旅立たれたのですね。今暫く娑婆世界に留まり先生の理想とする人生論を伝授して頂きました。先生と始めての出合いは、S40年頃に新潟より小田原市立病院に出張し当社特製の交換ボックスを納品の折、取付などをお手伝いしていた頃が今でも鮮明に脳裏に残っております。それから三年後横浜営業所を開設し先生とのお付き合いが始まりました。歳月は長かった様な短かった様な感じで一杯です。残った私は先生の教訓を心の支えとして精一杯努力して参りたいと思います。私の旅立ちの日は未定ですが、何時か必ず先生の住んでいる浄土に寄せて頂きますので、その折り人生論に花を咲かせ俗世間の話しを肴に美味しい酒を酌み交わし、極楽世界の道案内をお願いしたいと思います。今暫く四玉天より下界を見下ろしながらゆっくりお待ち下さい。



渡部 正美

私が水沢先生に初めてお会いしたのはS43年9月16日入社した日、当時の土井所長に連れられて病院を訪問した時でした。第一印象はとても気品がお有りで私のような者を相手にして下さるのでしょうかと思いました。しかし先生は快く私を迎えて下さいました。その後、仕事は何も解っていないと見てとった私に専門的な事柄を色々教えて頂きました。又、麻雀、鮎の友釣、溪流釣も教わりました。そして「気違いになるなよ」とよく言われましたが、今では「釣キチ渡部」と成って岩魚、山女魚、鮎と戯れております。昨年9月先生は湯之上先生（東海大）と私の3人で酒匂川の鮎釣を計画されましたが、台風の為に中止と成り湯之上先生共々残念がられておられました。来年こそはと張り切っておられたのに……。公私共に走馬灯のように色々な思い出が浮かび、ただただ残念でなりません。どうか安らかに眠り下さい。



渡部 隆夫

私が暫く病床に有り、そんな折りにお見舞い頂いた時先生は私に語ってくれました。「人生に山河有り、信念を持って病に立ち向へ、明日は我が身で有るかもしれない。自分の意志ではどうにもならない事は沢山有るんだから・・・。」そして先生ご自身の技師としての生い立ちも話して頂きました。「僕には学友も無く、勿論卒業した学校も無い。寂しいものですよ。」更に先生は「丁度良い機会だ、本でも読みなさい。」と言っては心理学、教育学、最後には哲学の本までお借りしました。

先生には公私共大変お世話に成っていましたが、先生が何を言いたかったのか、又私に何を理解させようとして居るのか入院生活しながら色々考えたものでした。

ある時、同じ道を歩む友人であるお子様が血液病で亡くなられた時、先生は「渡部君、俺達は何のために医療に携わって来たのだろうか。あの子が成人したらどれだけ社会の為に尽くす事だろう。それを唯手をこまねいて居るだけだ。」と言って、「今夜は俺に付き合えよ！」そして二人で飲んだあの日を思い出します。

二、三年前友人達と共にゴルフへ行つた時に、私と共にあまりにも醜いスコアだった。「やはり若いうちからやって居ないと駄目だね。しかし当時の俺達は食う事が第一、それが出来る様に成ると子供の教育、今度は住宅ローン、経済的に余裕が無かったからね。君が家なんか造るからだ！」などと言って笑ったものだった。

先生と最後に語りあったのは今年の六月中頃でした。自宅にお邪魔したい旨を電話すると、「なんだ、今日は休みなのか。タクシーで先に◎◎へ行っててくれ、お店には僕から電話して置く。」もうその頃には先生は退職され、職場から離れた寂しさと勤め終えた安堵感をつくづく語られた。「技師はやはり患者さんの為の者でなければ・・・。」

このように今、私は先生との思い出を振り返り、私成りに志考して居るところです。そして、今は亡き先生との思い出の中に我々放射線技師のこれからの指標が有るように思われて成りません。

先生は技師としてその生涯を全うされました。しかし先生は私達に対し自分自身の目的とする技師像を語ってはくれなかった。しかし先生の心はこうではなかったかと・・・。「患者さんの為の技師」所詮、新しい医療器械、医療技術を以ってしても患者さんに接する態度、共に働く医療技術者間とのコミュニケーション、技術者としての心の持ち方など我々は心しなければならぬ。

最近のテレビニュースや新聞に出るコラムを聞いたり読んだりする時に現在の医療の在り方をしばしば考え問い直す必要が有る。

又、新しく卒業して来る大卒の技師に対する私達の対応の仕方、そうした様々な考えが先生の頭の中の有ったのではなからうか？ まさに日放技会長が語られている事と同じだと私は思う。

或る本に、「自分の意志を明記するのでは無く、相手にそれを考へさせる事が大切である。」と書いて有ったが、今思うに水沢先生はそれを私達に言葉では無く態度で示されたのではなからうか。

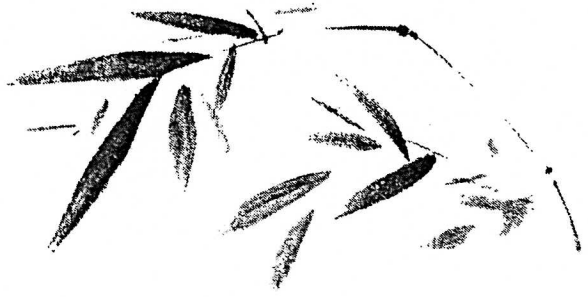
私は先生の暗示を信じて残された人生を生きようと思います。若い技師の方々も一考する価値が有るように思います。皆さんとこれからの技師像を共に語り合えたらと思います。

最後に先生は

「病院や医療施設は人間が死する所では無い。私が死する時は自分の家で・・・。」と、自身でそれを実行されてしまいました。お世話に成った家族の側で永眠されました。此の事もこれからの終末医療に一石を投じたとも思います。

先にも記しましたが皆様と話しつつ水沢先生を偲んでみたいと思います。先生はきっとあの世で微笑まれておられるだろう・・・

もっともっとご指導して頂きたかった。



編集後記

地球温暖化と言われ続けて何故か今年は降雪が早かった事か。思い思いの用具で雪搔きをしている風景が例年と違い、街の人々の表情が雪を待っていたかの様に明るい。たぶん新潟生まれの水沢先生を早く喜ばせようと天国で相談したのかも知れませんネ。

今回の「地区だより」発行は役員会の一致した意向を汲んで編集部が中心になり、例年2月頃発行予定をやや速めさせて頂きました。

暮れ近くに発行してみた感想は、新年もやや色覚めする2月発行より一年の計を締めて新たな気分でお正月が迎えられるこの時期の方が良いかも・・・

皆様、来る年がそれぞれに良き年で有りますよう祈りつつ・・・

(山田/徳安)

